

第3号



自由民主党

河野陽子通信

河野陽子、太郎 新春対談

衆議院議員 河野太郎と河野陽子が、
目黒区をテーマに対談。



河野太郎 陽子さんと私は、同じ年で、祖父が兄弟、つまり、ほとんど同士になります。陽子さんが身近な区政に関わっていらっしゃると思うんですけど、きっかけは何ですか。

河野陽子 大きな桜の木がある子供たちの遊び場を区営住宅にするというときに、せめて桜の木だけでも残してほしいというお願いを区にしたのですが、行政の縦割りのなかで埋もれてしまいました。区民と行政を繋ぐことの重要さを感じました。昨春、娘たちが社会に飛び立ったときに、藤沢で市議会議員を長く務めた母が、身近な人たちのために地域に密着した活動をしていたのを思い出しました。「地域のためにひと肌もふた肌も脱げる、おせっかいおばさんになりたい!」が原点です。

河野太郎 私の祖父、河野一郎も中目黒に住んでいましたが、陽子さんは、いつ目黒区民になったのですか。

河野陽子 私は長女が幼稚園の頃に大田区から目黒区に移って娘三人をここで育てました。娘が図書館で受験勉強をしていたときに、区の財政事情で図書館の開館時間が短

くなって、目黒区の財政はそんなにひどいのかと驚きました。

河野太郎 TSUTAYAと組んで運営費を削減しながら図書館の開館時間を二倍にした佐賀県の武雄市のような例もあります。

河野陽子 お金がないから行政サービスをカットするだけではなく、これからは地域や民間を巻き込んでサービスを維持する必要がありますね。

河野太郎 これから東京や神奈川の高齢化が始まります。これまでの地方の高齢化とは比べ物にならないほどのインパクトがあります。

河野陽子 去年、目黒区で、誰にも気づかれずに亡くなった一人暮らしの高齢者が68人いらっしゃいました。なにもしなければきっとこの数字が増えていきます。団塊の世代も高齢化し、どんどん増える単身高齢世帯をどう見守っていくかは街の重要な課題です。

河野太郎 近所の商店街や郵便局が配達のない様子を見たり、家電をネットにつなげて一定時間利用されなかったら通報されるようなシステムの導入など様々な試みが全国

で始まっています。

河野陽子 そのときにすべて行政が対応していたら、税金がいくらかかるかわかりません。遠くの家族より近くの他人です。お互い見守りができる近所のコミュニティが大切になってきます。

河野太郎 都会の中でたった一人では高齢化時代、生きていけませんね。これまでは公のことは官がやるものでしたが、コミュニティを中心とした民が公のこともやらねばならない時代になります。さて、目黒区も待機児童問題がテーマですね。

河野陽子 もちろん保育園の拡充は大切です。それだけでなく、保育の資格を持っていても活用していない人材が目黒区にもたくさんいらっしゃいます。そういう人材を発掘して、よりきめ細かい保育の支援をしていけたらと思っています。子育て中のお母さんは悩みを抱えて孤独です。

河野太郎 我が家でも、長男が小さい時に、具合が悪くなり悩んだ末に救急車を呼んで病院に連れて行ったことがあります。単なる風邪でしたが、妻と焦りました。義母に来てもらってから劇的に変わりました。

河野陽子 小さなことでもすぐに相談できる人がいるかどうか、あるいは周りが気を付けていて、困っていそうならば先に手を差し伸べることができる、そんな環境があれば、いろんな問題を解決することができると思うのです。

河野太郎 やはりコミュニティが重要になります。その一方で昔からある町内会や自治会といった組織が弱体化してきています。



2面に続く

1面から続く

河野陽子 目黒区でも町会、自治会がありますが、加入率も下がってきています。古くからあるコミュニティと新しい住民をどう融合させていくか、区政の大きなテーマです。

河野太郎 子供たちもそのコミュニティの大切なメンバーです。

河野陽子 今年のお正月に、家族四人がこたつでそれぞれ勝手にゲームをやっているCMを見て絶句しました。家庭や学校に居場所のない子供に、地域の中でつながりを持つことでSNSやネット上ではない居場所をつくってあげたいと思います。

うちの三女は、平田オリザ氏を起用した目黒区の演劇プログラムがきっかけで演劇を勉強する道にすすみました。そこで共通の趣味を持った友人もでき、そこに居場所ができたことが大変ありがたかったと思っています。多方面のプロを招いた定期的なワークショップを開いて、子供たちが自分の将来のことを考える手助けをしたいと思います。

河野太郎 学習障害を持つ子供たちについても、目黒区は東京都のモデル事業を実施していますね。

河野陽子 目黒区では、小・中学校で新しい取り組みが始まっています。でも、社会にでるところになってから学習障害児だったと気づく例も多く、民間やNPOと連携したトレーニングや就労支援も必要だと思います。

河野太郎 私が大学を卒業して富士ゼロックスに入社したころ、陽子さんはレナウンの腕利きの営業として有名でした。

河野陽子 男女ともに、いろんな生き方があるっていいと思いますし、それができる社会を作りたいと思います。女性もバリバリ仕事をすると、子育てに専念したいとき、子育てが終わり仕事に戻るとき、学費のためなどで仕事に就くとき、様々な選択があってよいと思います。私自身、離婚して仕事を探そうとしたとき、長く社会から離れていたことで仕事の探し方すらわからず途方に暮れました。民間やNPOと連携して様々な場面での女性の就職支援体制を作っていきたいと思っています。

河野太郎 陽子さんは、動物愛護にも関わってこられましたね。

河野陽子 飼い主の高齢化は、飼われている動物にも影響します。高齢者がケアマンションに入ったり、飼い主が亡くなったりして行き場のなくなったペット達をどうするか。動物の問題は、「かわいそう」だけは解決できないことばかりです。

河野太郎 区政のような身近な政治はそれだけ目に見えることが多く、やりがいもあると思います。

河野陽子 ぜひ、区、都、国で連携できるところは、協力しながらやっていきたいと思っています。



私達も河野陽子さんを応援します!!



衆議院議員
若宮けんじ



衆議院議員
河野太郎



参議院議員
丸川珠代



参議院議員
三原じゅん子



東京都議会議員
鈴木隆道

ま ち
選ばれる目黒になるために
河野陽子取り組みたい5つのこと

子育てのための子育て
お年寄りを大切に目黒
働くお母さん・働きたいお母さんを応援
安心・安全な目黒、緑の目黒
小さな命達(ペット)を守ろう🐾



自民党目黒総支部 政調副会長
自民党目黒総支部 女性部副部長

河野陽子 プロフィール

略 歴

1963年(昭和38)年 東京都港区生まれ 52才
湘南白百合学園 小・中・高等学校を経てフェリス女学院大学卒業
目黒区碑文谷在住 元会社員 娘3人の母
祖父は故・河野謙三元参議院議長、母は河野颯子元藤沢市議会議長
親族には河野洋平元衆議院議長、河野太郎衆議院議員

趣 味

犬と暮らすこと、映画鑑賞・音楽鑑賞、仲間との語り

後援会

TEL/FAX:0800-080-0813 Mail: konoyokomeguro@gmail.com
HP: http://konoyoko.com Facebook: konoyokomeguro